

市民活動団体との 情報交換会を開催しました

10月13日(木)に、さまざまな分野で地域の担い手となっている市民活動団体との情報交換会を開催しました。市では、市民活動団体が地域の課題を解決するために提案・実施する事業を募集し、助成金を交付しています。今回は、平成26・27年度に市民活動助成事業の対象となった団体の、現在の活動状況や団体が抱えている課題、市の助成事業に対する意見などを伺い、あわせて団体同士の情報交換、交流を図りました。

参加団体（6団体）

- ・ オレンジクラブ
- ・ ポップらんど
- ・ 特定非営利活動法人 広島ジャンボリー・プロジェクト
- ・ 大竹山の会
- ・ おおたけ手すき和紙保存会
- ・ 地域ジンまちカフェプロジェクト
- ※欠席（3団体）
- ・ 大竹ホープ&ドリーム
- ・ 木野の未来を明るくする会
- ・ 幸せな田舎時間



主な意見

- ・ 団体同士の横のつながりができたらよい。
- ・ イベントでお互いに協力できればよい。
- ・ 各団体が一緒に企画を考えていけるような会を今後も開いてほしい。今回の情報交換会がそのきっかけになればよい。
- ・ 行政にも団体の活動に関わってもらいたい。
- ・ まちおこしに協力してくれる団体は多いので、市に「大竹市」を積極的にPRしてもらいたい。
- ・ 市民活動団体の連絡網を作ってはどうか。そうすれば、団体同士で連絡を取り合って協力できる。
- ・ 助成金はあくまでも支援であって、助成金がなくても活動を続けられるようにしてはいてほしい。
- ・ 助成金をうまく活用して今後の活動につなげていく必要がある。
- ・ 市広報紙で団体の活動を紹介してもらいたい。

市民活動団体の紹介

市は、地域課題の解決に取り組む市民活動団体を応援しています。次のページでは、平成26・27年度に市民活動助成事業の対象となった団体を紹介します。



問い合わせ 自治振興課 ☎2142

今回の情報交換会で、各団体の現在の活動状況や抱えている課題などを聞くことができました。また、それぞれの団体が情報を交換し合うことで、団体同士の交流が図れ、横のつながりを持つきっかけにもなりました。今後も、こうした団体の皆さんの「生」の声を聞く機会を作っていきたいと考えています。

オレンジクラブ

(代表者 高木みどり)

地域の課題

市内在住の子育て世代は、市内や市近郊の事業所に勤める県外からの転入者が多く、核家族で血縁者の手助けを受けることが困難になっています。

活動の目的

子育て中の皆さんに対して、次のような支援を行います。

- 病院・健診・買い物の付き添い
- 授業参観時の子守り（学校内での子守り）
- 講演会・研修時の託児（現地での子守り）

活動の内容

平成26年4月から、市内在住の子育て中の保護者を対象に、子育ての手助けをする有償ボランティア支援を実施しています。

平成27年度は、新規利用者やリピーターも増え、計28回、延べ37時間の利用がありました。利用内容は、医療機関受診時や学校行事等参加時の子守り、自宅で

の家事中や入浴時の子守りなどでした。「大竹市こんにちは赤ちゃん事業」の赤ちゃん訪問（市内全戸対象）や広報活動により認知度が少しずつ上がっています。また、地域の子育て支援に携わってきた会員でメンバー構成をしていることも安心して利用していただける要因となっています。

活動の財源

利用者からの「登録料」と「利用料」が主な財源です。

助成事業（助成金）による効果

助成金で支援活動用のユニフォーム（ジャンパー、Tシャツ）を整備することができ、団体活動のアピール、認知度の向上に役立っています。

今後の予定、将来的に取り組みたい課題

今後も、子育てに思い悩んで肉体的にも精神的にも疲れている方や、県外から転入して来て不安を抱えている方への手助けとして、活動を継続していきます。



ポップらんど

(代表者 東條 悦子)

地域の課題

障害児（者）は、習い事やスポーツ団体に加入しての活動は難しいことが多く、また、各自の能力を伸ばし、やる気や自信を育む場が乏しく、障害児（者）を持つ同じ境遇の人とのつながりが希薄になっています。

活動の目的

障害を持つ方にリトミックによる音楽療法を行っています。音楽を身体で感じ、曲に合わせて体を動かしたり演奏して心と体を育みます。障害児（者）を持つ同じ境遇の人とのつながりを持ち、共感し、助け合い、子育てや生活などについて学びます。

活動の内容

毎月2回の音楽療法を行い、音楽を楽しみながら曲に合わせて、体を止める・動かす・コントロールするなどを繰り返し、テンポ感、リズム感を養い、聞く力や集中力を高めています。曲の速さに合わせて他の人とボールをやりとりし、力

の加え方などを変えることで、全身を使いながらコミュニケーション能力を向上させています。

ハンドベルの演奏では、和音やメロディーを奏することもできるようになり、演奏曲目も増えていきます。テンポ感、リズム感が養われるだけでなく、楽器をゆずり合うなど相手を思いやる気持ちも育っています。

活動の財源

参加者からの「参加料」が主な財源です。

助成事業（助成金）による効果

助成金でいろいろな楽器を購入でき、いろいろな音を感じながら楽しく演奏ができるようになりました。

今後の予定、将来的に取り組みたい課題

他の地域にも障害を持ちながら演奏活動をしている団体があります。演奏を聞きに行くなどして、活動の幅を広げたいと考えています。

